

海外婦人労働資料第十八号

アメリカ婦人の職場進出

（七〇年間の動き）

労働省、婦人少年局

アメリカ婦人の職場進出

——七〇年間の動き——

労働情報 一九四九年三月

一九四九年の社会の状況は、一八七〇年のそれとは、全く異なっている。たとえば婦人を例にとれば、ユリシーズ、S. グラントが大統領の頃、婦人絹物上衣作師（一七八世紀に用いた上衣）は、裁縫屋や、女仕立師と共に、街ひとりに住んでいた。たった一人ではあるが、建築技師もいた。

タイプライターは漸く噂にのぼり始めた頃であるが、当時筆耕業は男子の専門的職業であつた。婦人の法律家はごく少数、医者も五四人、看護婦は一五四人（附看護婦と訓練を受けた看護婦をひとりにして）と推定された。婦人の多くは現在と同じように農場で男子を助けていた。

婦人の職業史にかんするこれら数多くの事実は、労働省婦人局発行の二六〇頁からなる研究報告の中に示されている。これは南北戦争後の一八七〇年から第二次世界大戦が始まるうとした一九四〇年までの七十年間の動きをみたものである。

一九四〇年には、四五一種の職業分類統計中、あつか九種を除いたすべての職業に婦人が従事し、その総数は二五〇、〇〇〇人である——労働者総数の四分の一を占め——この数字は、一八七〇年の全労働力に相当している。

女子の働く主な職種十種の中、一八七〇年、一九四〇年ともに婦人が従事していたものは、召使、教師、看護婦の三種にすぎない。

一九四〇年に婦人の従事していた主な職業七つの中には一〇〇、〇〇〇人以上の速記者、タイピスト、秘書、七〇、〇〇〇人の事務員や同様の職業婦人五〇、〇〇〇人以上の店員、五四五、〇〇〇人の衣服、服飾師を含んでいる。これら主要職業のほか、宗教的、社会的、福祉的仕事に従事していた婦人は、一九四〇年には、総数七四、四〇〇人、飲食店に従事する婦人は六六、一〇〇人であつた。

出版、報道関係の業務に従事する婦人の数は、一八七〇年の僅か四三名から、一九四〇年には、一五、八九〇名に増加している。

増加しているが、一九四〇年になつてもまだ女子のあまり回たない職業がある。教師は、一八五一年に最初の女子神学校卒業生をたしているが、それから七十年経つても、総数は僅かに三三〇八人であつた。一八七〇年にはたった一人の建築技師がいたが、一九四〇年にはその数は四九七人となつている。一九一〇年から一九四〇年の間に、婦人の法律家、裁判官の数は、五八八人から、四四七人に増加している。

国勢調査分類によれば、婦人の内科医、外科医、整骨医、脊柱按摩師、治療師、医療関係従事者の数が最も急速に増加した数は六三、〇〇〇人で、一九四〇年に、これらの分野に従事する婦人の総数は二〇、六七一人で、一八七〇年当時の三八倍近くに達している。

婦人は歯科医になることもあまり好まないとみえる。一八七〇年に二五名であつたが、一九二〇年には、一九〇一名と頂点に達し、一九四〇年の総数は、一〇六七名に減少している。一八七〇年に登録していた婦人死体保存者、葬儀屋二〇名は、一九四〇年には二〇〇〇名以上に増加している。

一九一〇年より、一九四〇年の間に、最も婦人労働者数が減少したのは、職業従事者、裁縫師、女仕立師である。職業従事者は一九一〇年より、五二七、三五二人少く、裁縫師、女仕立師は三八八、四九八人少い。また同期間に、洗濯女や洗濯所に働く婦人の数は二二五、〇〇〇人の減少を示している。

一八七〇年の職業で、最近の国勢調査から、全く姿を消したものは、婦人絹物上衣製造師、縫骨張入りスカート縫師、銀板写真師である。一九四〇年には婦人絹物上衣製造師は全く存在せず、後二者の製品も、もはや要求がなくなつた。リネン飾り附け人もまた姿を消した。

一八七〇年以來、他の労働者と共に姿を消していったものに、風呂屋、貸馬車屋、車輪製造人、鍍金師、きこり、しつくい塗り、蒸気航運転手がある。かつては婦人の重要職業であつたが、もはやその存在価値のなくなつたものは、おち造り、鏡、及び、空真わく造りである。

髪髻、鍍金師、わら(毛)蒲団作り、櫛、針、